

国際シンポジウム

「災害下におけるソーシャル・キャピタルと健康」

“Social capital and health in disaster”

東日本大震災で、人々の「絆」(ソーシャル・キャピタル)が注目を集めました。ソーシャル・キャピタルが豊かだと、被災した人々の健康被害が抑制され、回復が促進されるのではないかと、いう声は少なくありません。一方、その根拠の多くは事例や経験にとどまり、科学的なエビデンスはまだ限られています。将来への備えとしてソーシャル・キャピタルの位置づけを高めるには、科学的な知見がもっと必要です。エビデンスを増やすところ、被災国日本の研究者が取り組むべき課題ではないでしょうか。

そんな思いに駆られ国際シンポジウム「災害下におけるソーシャル・キャピタルと健康」を企画しました。ソーシャル・キャピタル研究の第一人者 Ichiro Kawachi 教授(ハーバード大学公衆衛生大学院)をはじめとする研究者をお招きし、研究の到達点を確認し、今後の研究課題を考えます。

【日 時】 2013年5月25日 午後1時～午後5時

【場 所】 東京大学経済学研究科・学術交流棟(小島ホール)2階コンファレンスルーム

シンポジスト

Prof. Ichiro Kawachi (Harvard School of Public Health)

“The role of social capital in disaster resilience*” (日本語抄訳つき)

*レジリエンス(resilience)とは「精神的回復力」「抵抗力」「復元力」「耐久力」などと訳される心理学用語。心理学、精神医学の分野ではレジリエンスと表記して用いることが多い。「脆弱性(vulnerability)」の反対の概念であり、自発的治癒力の意味。

澤田 康幸 教授(東京大学大学院経済学研究科)

「災害・市場の失敗とソーシャル・キャピタル(仮題)」

相田 潤 准教授(東北大学歯学研究科)

「東日本大震災被災者の仮設住宅の入居方法、ソーシャル・キャピタルと健康」

総合討論

コーディネーター 近藤克則(日本福祉大学 健康社会研究センター長)

【参加費】 無料

【申込先】 資料準備の都合上 jages_admin@ml.n-fukushi.ac.jp まで申込みをお願いします

主催 日本福祉大学 健康社会研究センター

共催 厚生労働科学研究「健康の社会的決定要因に関する研究班」

「介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究班」

本シンポジウムは、平成25年度長寿科学総合研究推進事業ならびに私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成を受けています